[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0272300682
法人名	株式会社介護サポート
事業所名	グループホームあすか
所在地	〒036-0114 青森県平川市町居西田111番地1
(電話番号)	(電 話) 0172-43-1165

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会				
所在地	〒030-0822	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階			
訪問調査日	平成22年	3月25日	評価確定日	平成22年5月19日	

【情報提供票より】(平成 22年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 (平成)	15年 5月 2日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤	人,常勤換算 6人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋2階建 造り		
廷101再足	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

(**) 16/16/11 = 6 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11/11 = 5 (** 122/11/11 = 5 (** 122/11/11 = 5 (** 122/11/11 = 5 (** 122/1						
家賃(平均月額)	15,	000	円	その他の約	怪費(月額)	9,000~冬期12,000円
敷 金	有(円)		無)
保証金の有無	有(円)	有りの	場合	有/無
(入居一時金含む)	(m)			償却の	有無	有/無
	朝食			円	昼食	円
食材料費	夕食			円	おやつ	円
	または1	日当たり	1,200	円		

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用都		9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介	`護1	1	名	要介護2	4	名
要介	`護3	2	名	要介護4	1	名
要介	`護5	1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	78.7 歳	最低	70 歳	最高	88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名 坂本アレルギー呼吸器科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の田園に囲まれた見晴らしのよい場所にあり、元々温泉であった建物を改築したもので、生活しやすい環境に整備されている。居住スペースが2階、浴室は1階であるが、エレベーターが設置されており利用者は移動しやすい。近くの訪問看護ステーションと契約し、定期的に看護師の訪問を受け、健康状態の把握に努めているほか、定期的に協力医の往診も受け病状の安定が図られている。温泉を使用した床暖房で、館内はスリッパ等の履き物が無くとも十分過ごしやすいうえ、温泉は源泉掛け流しでいつでも入れる環境にある。今後改修を行い、スプリンクラーを設置すると共に浴室を同じ階に作ることが予定されている。

【重点項目への取り組み状況】

|前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)

前回の評価で主な改善項目として掲げられた運営推進会議については定期 車 的に開催されている。しかし、ホームの理念と、重度化した場合の方針につい 点 ては改善されていないため、今後の取り組みに期待したい。 項

今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

|今回の自己評価は、全職員で話し合いながら作成され、評価の意義も職員の |理解が得られている。

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)

点 現在の運営推進会議は、事業所の方針や体制、行事等の説明が中心になっ項 ているが、これからは、災害時等の協力・支援体制の確立、外部評価の結果 を報告してのサービスの向上を図る機会作りの場として活用していく方向である。

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11) 毎月利用者の家族に対して発行される広報誌に、ホームでの生活ぶりや写 真等を載せ報告している。苦情処理についても、受付箱が設置されている。 現在、苦情はないが寄せられた際には、解決に向けた方針が確定されている。 また、家族面会時には積極的に要望を聞き、サービスに反映するようにしている。

日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

│ 地域の行事に積極的に参加し、外出するようにしている。ホームで飼っている │ 犬の散歩を行い、近隣住民から声を掛けられることもある。すぐ隣に保育所、 │ 近くには小学校もあり世代を越えた交流が図れる環境にある。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		理念に基づ〈運営 念と共有			
1	1 1	地域密着型サービスとしての理念	認知症対応型共同生活介護事業に対する目的や運営の方針は作られているが、「グループホームあすか」としての理念は作られていない。		誰が見てもわかりやすい、グループホームあすか独 自の地域密着型の理念を、全職員で話し合い、作り 上げることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	日常において理念を意識して業務を行い、毎月の会議 や申し送り時に確認している。		
	2.地	!域との支えあい			
3	4	常的なつきあいができるよう努めている。事業 所は地域の一員として、自治会、老人会、行事 等、地域活動に参加し、地元の人々と交流する	地域の道ばたのゴミ拾いや、行事に積極的に参加している。ホームで犬を飼っており、天候にもよるが毎日散歩に出掛け、地域住民との交流を図っている。また、近所の自営業の方や作業中の方が立ち寄ることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3	. 理	念を実践するための制度の理解と活用			
		評価の意義の理解と活用	外部評価を通して、自分達が日頃気付かないことや、 目に見えない部分が再確認でき、改善していくことが		
4		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部 評価を実施する意義を理解し、評価を活かして 具体的な改善に取り組んでいる	できるため、貴重な評価だと感じている。自己評価を 行い、自分達の足りない部分をどのように補うか、職 員全体の技術で至らないところはどこなのかを発見で きるため、スキルアップにつながっている。		
		運営推進会議を活かした取り組み	市職員、民生委員、町会長、家族、管理者及び職員が メンバーとなり、2ヶ月に1回実施している。ホームの		
5		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営規程や職員の体制等の説明から、行事や取り組み等を報告している。質疑応答を行い、意見等を求め、話し合い、それをもとに、サービスの向上に活かしている。		
		市町村との連携			
6		にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実 情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運	運営推進会議を通し、ホームの取り組み方を説明し意見交換を行っている。その他各種連絡や相談なども日頃から電話やメール等で取り合っている。また、市からの要望で介護技術についての講習会も行っている。		
		権利擁護に関する制度の理解と活用			
7		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそ れらを活用できるよう支援している	保健センターにおける地域ケア会議で、成年後見制度 について勉強会が行われ、管理者が参加し、資料を持 ち帰って全職員に回覧し周知を図っている。		
		虐待の防止の徹底	#羽人笠。の名前はかりが 次型を取り中央 市場		
8		ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業	講習会等への参加はないが、資料を取り寄せ、事業 所内で研修会を行っている。また、職員による虐待が 行われないよう、職員間での話し合いを日々行ってい る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	. 理	念を実践するための体制			
		契約に関する説明と納得			入退居について、「入院治療を必要とする場合に
9			入居時に、管理者が契約書・重要事項説明書を詳しく 説明し、理解してもらうことができている。また、疑問や 質問には説明時に家族へ確認し、その場で答える様 にしている。		は・・・」との記載はあるが、明確な日数等の記載が無い。利用者及び家族に判りやすいよう、明確な退居基準を作り重要事項説明書に載せることが望まれる。
		家族等への報告			
10		人が答用 動見の用もなについて ウザダにウ	毎月家族に対し広報誌を発行している。その際に、生活状況や健康状態の報告、スナップ写真、請求書を送っている。受診結果や体調の変化にはその都度電話にて報告している。		
		運営に関する家族等意見の反映	女は女人ポットなは四八仏八四がた50男している		
11			苦情受付ポストと苦情取り扱い用紙を設置している。 苦情があった場合は苦情報告書を作成し、話し合いを 行い対応し、解決に努めている。解決した後も、再発し ない様に経過確認をしている。		
		職員の異動等による影響への配慮			
12		による支援を受けられるように、異動や離職を	最近、職員の異動は無いが、交代時には家族に対し 広報誌を利用して職員の交代を連絡している。利用者 に対しては、不安や混乱を招く恐れがあるため、聞か れたら答えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)		
5	.人	材の育成と支援					
		職員を育てる取り組み	新採用の場合は関連施設において、見学から実習、				
13	17	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テストを含め2~3週間の研修を行っている。グループホームに配属されてからも事業の内容を説明した上で業務につき、毎月職場内研修を行うほか、外部研修にも年1回は参加させている。				
		同業者との交流を通じた向上					
14		連合者は、官埋者や職員が地域の同業者と父	保健センターで行われる研修会、地域ケア会議に地域 に在住するグループホーム管理者等が参加し、情報 交換や交流が図られている。		地域における研修会へ管理者が参加し、交流が図られているようであるが、管理者だけに留まらず、現場の介護職員等の交流も図れるよう工夫されることが望まれる。		
1		ご心と信頼に向けた関係づくりと支援 談から利用に至るまでの関係づくりとそのタン	村応				
		馴染みながらのサービス利用					
15		本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫 している	できるだけ、自宅に近い雰囲気で過ごしていただけるようにしている。他の利用者との関係も考慮し、同じ趣味や話題を提供していくようにしている。帰宅願望の強い方には家族へ外出・泊のお願いをし協力を得ている。				
2	2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
16	24	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、後に没ずしたが、	本人の体調や希望に合わせ、時間にとらわれないよう対応を心がけている。炊事や洗濯、掃除その他生活に必要なことは、利用者に手伝っていただき、昔のやり方を聞いたり、新しい方法を教えたりと、共有しあっている。				

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)			
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマ	マネジメント					
1		-人ひとりの把握						
17	30		利用者の希望にできる限り近い暮らしができるように 努めている。困難な場合は、家族からの情報と、本人 の生活歴・性格などを考慮し、本人の意向に近いケア ができるように努めている。					
2	. 2	ト人がより良〈暮らし続けるための介護計画の)作成と見直し					
18	33		入居時に本人や家族の要望を聞き計画書の原案を作成し、職員を含めた会議を開催した上で、出来上がった計画書を家族へ提示し承諾を得ている。					
19	34	介護計画の期間に応じて見直しを行うととも	利用者ごとに3ヶ月、6ヶ月単位の定期見直しの他、状況に応じて見直しを行っている。また、状態が変わった際には家族へ連絡し、要望を聞き入れ計画に反映させている。					
3	3.多機能性を活かした柔軟な支援							
20	36	本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を	1ユニットと小規模であり、家族との連携もとりやすいことから外出行事には家族を巻き込んだものを計画している。かかりつけ医への受診はホームで対応し、家族の希望があれば他科への受診も対応可能な体制を確保している。					

青森県 グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	· 本	人がより良〈暮らし続けるための地域資源と	の協働		
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続を基本としているが、家族の希望により、協力医療機関へ変更する方もいる。		
22		重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、 できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方 針を共有している	本人の状態を家族の方に説明し、主治医との連携をと りながら方針の統一に努めている。		利用者が重度化した場合の対応について方針を定め、定めた方針は、重要事項に記載することが望ましい。 入居時に家族へ説明し同意をして頂き、状態に変化が見られたときにはその都度報告し、家族が理解しているかを確認することが望まれる。
		その人らしい暮らしを続けるための日々 <i>の</i>	D支援		
1	. そ	の人らしい暮らしの支援			
(1)-	-人ひとりの尊重			
23		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよう	運営理念と共に、個人情報保護法については日常的に職員へ配慮して業務遂行するように指導している。また、勉強会や申し送り時等に確認しており、日頃からプライバシーに配慮した言葉使いに努めている。		利用者個々の記録やファイルがホールに置かれている。また、廊下の記録用パソコン周辺にも個人の状況記録用紙が貼られており、誰でも見る事が出来る状況にあることから、利用者だけではな〈職員の個人情報の取り扱いにも配慮し、ファイルの保管方法等の検討が望まれる。
24	49		ホームの日課や流れ優先でな〈、利用者の希望を聞き、個々にあったサービスの提供を意識してケアに当たっている。細かい体調の変化にも対応できるように 状態確認を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
((2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中や日常の会話の中から嗜好を汲み取り、栄養士と連携をとり、偏らないメニュー作りに取り組んでいる。準備や片付けを一緒に行い、また、テーブル配置なども工夫し、楽しい雰囲気で食事が取れるように配慮している。						
26		唯日で時間帝を職員の郁音で決めてしまわり	入浴は週2回、夕食後となっている。バイタル測定を行い、状態が思わしくない場合は、足浴や全身清拭などで清潔を保っている。天然温泉があり、リフトも備え付け、個々にあった入浴方法をとっている。						
((3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
27	56	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、	各自が役割を持っており、居室の掃除及び共有空間 の掃除などを手伝っていただいている。趣味や特技を 生かし、その場面に応じて発揮できるようにしている。						
28		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのそ	ホームで食べるおやつの買い出しや、希望に応じた外出を可能な限り対応出来るような体制を作っている。 受診の帰りなどは近〈のスーパーに立ち寄り買い物を 楽しんでいる。						

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
((4)安心と安全を支える支援								
29		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を 正し〈理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止については、入居時に詳しく説明している。また、内部研修を行って職員にも周知し、身体拘束を行わなくてもよい環境作り、ケアの提供を日々考えている。						
30			換気をすると共に、ベランダへの出入りができるようにしている。ベランダや外に出る際は、安全のため利用者の把握と職員同士の声がけを徹底している。危険と思われる場所には施錠を実施するとともに、内服薬については保管室に施錠している。						
31		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を日中・夜間対応に分けて実施している。避難訓練時に救急隊に助言してもらうなど、迅速に対応できるよう心がけている。火災発生時の緊急連絡体制についても現在見直しが行われ、近隣住民をも巻き込んだ体制が作れるよう検討している。						
((5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
32	74	ドブなりでもでしま しかしりの小台の十つ	同建物内にあるデイサービスの栄養士が献立を作成している。食事チェック表・水分チェック表を作成し把握に努めている。塩分の過剰摂取を避けるために、みそ汁・漬物の提供を検討している。						
33		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあ り、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、 MRSA、ノロウイルス等)	協力医の指示のもと、建物玄関には、手指消毒液とうがい用品が置かれている。また、マニュアルに基づき 毎食前の手洗い・手指消毒・うがいを徹底している。また、感染症についての勉強会も実施している。						

青森県 グループホームあすか 平成22年5月19日

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)		
2	2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
((1)居心地のよい環境づくり						
34	78	浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や	ホーム内を季節によって装飾している。食事の際は、 テレビの音量に注意したり、窓を開ける、音楽を流す 等の環境作りに努めている。				
35		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのものを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫 をしている	家族からの情報をもとに、自宅で実際に使用していた ものを持ち込んでもらい、できるだけ自宅にいるような 環境作りに努めている。				

は、重点項目。